Chapter 23 : **サイキックプリンセス、参戦**

静かな現実世界で、ブースター（Fireeevee）は、シャワーズ、サンダース、アブソルを誘って、母親の図書館でまったり週末ゲーム会を開いた。  
古い本の香りと、入れたての紅茶の匂いが漂い、ステンドグラスにはアンノーンの文字が差し込んでいた。

本を棚に戻していたエーフィが、モニターの前でにやにや笑っている子どもたちに気づく。

**エーフィ**：「最近、そのゲームにそんなに夢中なのはどうして？」

**ブースター**：「僕とパパでママをゲンガーから助けたやつだよ！いまね、ホーンテッド迷宮イベントが来てるんだ。手伝ってくれない？」

**エーフィ**（首をかしげながら）：「……迷宮？空間論を副専攻してた司書に、迷宮の謎解き頼むなんて、面白い挑戦ね。」

—

好奇心に駆られたエーフィは、その場でアカウントを作成。ユーザー名は「PsychicPrincess」。

参加した瞬間、画面にシステムメッセージが表示された。

[NEW PLAYER JOINED: PsychicPrincess]

スキルレーティング計測中… → Sランク

（警告：このプレイヤーは開発者を泣かせる恐れがあります）

一行は、ゲンガーとヤミラミが設計した《ホーンテッド・アーカイブ迷宮》へ突入。  
ループ構造の廊下、見えない扉、嘘トリビアの罠が次々と待ち受けていた――が、開始数分で異変が起こる。

**PsychicPrincess（エーフィ）**：

* トーチの背後にあるヒントをカメラアングルで読み取り、
* ジョウト地方の実在詩を引用して、偽のジュゴンなぞなぞを即座に解読し、
* 見えない扉のルートを、たった2回の試行で記憶・完全攻略。

管理者コンソールから見ていたヤミラミが絶句。

**ヤミラミ**：「な、なんだよ……おいらの迷宮、一瞬でスピードランされたぞ……」

**ゲンガー**（霊体で汗だく）：「やべぇ……化け物を解き放っちまったかもしれねぇ……」

—

最終部屋に到達すると、一同は最後の謎に直面した。  
鍵付きの宝箱には、こう記されていた：

「真実を解いて我を開けよ。

　お前の過去、輪の中に形を取り、

　鍵も錠も持たぬが、

　心を閉ざす理由となる。」

全員が頭を悩ませる中、エーフィが微笑む。

**PsychicPrincess**：「……答えは“トラウマ”よ。」

宝箱が即座に開き、紙吹雪が舞う。  
操作していたゲンガーが、またしても大げさに気絶ポーズ。

称号「Maze Breaker（迷宮破り）」を獲得！

報酬：カスタムコスメティック『ロイヤル読書メガネ』（アニメーション付き）

—

**ブースター**：「ママ……マジで強すぎるって。」

**エーフィ**（くすくす笑いながら）：「 darling、罠の仕組みなんて、あんたが生まれる前に読み尽くしてるわよ。」

—

場面は変わり、開発拠点。  
ツンと香る紅茶を片手に、ツンベアー椅子に座るキレ気味の開発者ツンベアー……ではなく、ツンベアーではなくツンベアーではなく、ツンベアーじゃない！←（おっと、ミス入力）

改めて――  
ツンベアーではなく**アマージョ**と**ガラルギャロップ**が、サーバーの解析画面に目を光らせていた。

**アマージョ**：「誰よこの“PsychicPrincess”って……開発者向けパズルを二十分以内に全部突破って、意味わかんないんだけど。」

**ガラルギャロップ**：「……スカウト、検討すべきね。」